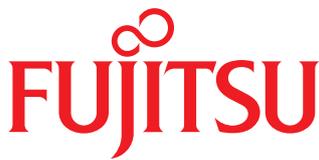




導入事例  
CASE STUDY

エンドポイントセキュリティ製品の  
トップベンダーが推奨する  
操作ログ管理ソフト「MylogStar」  
販売だけではなく、自社でも利用

各業種に適した業務アプリケーションの開発や、組み込みシステムの開発、各種ITサービスや汎用パッケージの開発・販売などで顧客のビジネスを支援する富士通ビー・エス・シー。展開する情報漏えい対策ソリューション「FENCEシリーズ」と合わせて「MylogStar」を販売している同社だが、ISMS認証の取得などお客様への安全なサービス提供が可能な環境を用意するため、これらを自社データセンターの運用においても活用している。



株式会社富士通ビー・エス・シー

所在地：東京都港区台場2-3-1 トレードピアお台場  
設立：1963年11月  
資本金：19億7,000万円  
従業員数：1,877名  
URL：http://www.fujitsu.com/jp/group/bsc/

導入製品・ソリューション

MylogStar

課題

自社ブランドで販売していた操作ログ管理製品「FENCE-Tracer」を自社内でも使用していたが、販売を終了することとなり、これに代わる同レベルで証跡管理を可能とする新たな製品を探していた。

解決

業界トップクラスの操作ログ収集力を持つ「MylogStar」を導入することで、多彩なログを取得し管理することが可能になった。また、このナレッジを活かし販売パートナーとして、お客様への提供も行っている。

コンサルティングからシステム構築、運用まで  
隙のない情報セキュリティソリューションも合わせて提供



1963年というコンピューターの黎明期に設立された富士通ビー・エス・シー（以下、富士通BSC）は、ソフトウェア開発をベースにコンサルティングからシステムの構築、運用までをトータルで提供している。変化の激しいITの世界において、豊富に蓄積されたノウハウと実績に高い技術とサービス、サポート能力を融合して、顧客のニーズにきめ細かく対応している。

また富士通BSCでは、電子政府推奨の暗号化アルゴリズム「AES」を中核に、様々な暗号方式に対応した信頼性の高い情報漏えい対策ソリューションの「FENCE(フェンス)シリーズ」を提供している。情報を暗号化した

まま閲覧・編集できる「FENCEブリーフェース」など、独自の暗号化技術により、マルチプラットフォーム間における暗号化データの流通を実現し、様々な運用シーンに柔軟に適用できる。端末からの情報漏えいはもちろん、メール送信先、業務システムなどからの情報漏えいも防止。さらに企業導入が進むスマートデバイスなど、新しいデバイスに特化した「FENCE-Mobileシリーズ」も提供している。

そして各社との協業ソリューションとして複数のシステムやサービスもラインナップ。操作ログ管理ソリューション（証跡管理強化版）としては「MylogStar（マイログスター）」が提供されており、自社でも導入・活用されている。

「FENCE」ブランドを継承する「MylogStar」  
操作ログ管理に特化した機能アドバンテージが採用ポイント

富士通BSCでは、富士通グループやその顧客が利用するデータセンターの運用監視も行っている。今回お話を伺ったサービスマネジメント事業部・シニアエキスパートの杉山氏と小坂氏は、ともにデータセンターの運用監視および24時間の障害対応を担当している。「MylogStar」を社内でも導入するきっかけについて伺うと、「富士通BSCではISMS認証を取得していることもあり、セキュリティは常に意識しています。特にデータセンターの実運用では、誤操作によるトラブルの可能性を取り除くためにも、操作内容をログとして保存する必要がありました」と杉山氏は語る。

富士通BSCでは以前、「MylogStar」の前身となるログ管理製品として「FENCE-Tracer」を販売していたという経緯がある。これに伴い自社でも「FENCE-Tracer」を証跡管理に利用していたが、この「FENCE-Tracer」が販売を終了することとなり、これに代わる製品を探していた。「当時は個人情報保護法が施行されたばかりで、すでにPCの操作記録が手段として有効であると認識されていました。いくつかの選択肢がありましたが、『MylogStar』はログ管理に必要な各種機能や導入環境に合わせた製品ラインナップが用意されており、最も有力でした」と小坂氏は語る。今でも、操作ログ収集・管理に特化した専用製品としての機能アドバンテージは顕在であるという。



株式会社富士通ビー・エス・シー サービスビジネス本部  
サービスマネジメント事業部 シニアエキスパート

杉山 栄一 氏



株式会社富士通ビー・エス・シー サービスビジネス本部  
サービスマネジメント事業部 課長補佐

小坂 栄一 氏

## サポートのプロフェッショナルが太鼓判を押す 迅速な対応力で信頼と安心のサポート

導入後は大きな問題もなく、ログを取得しているということで従業員がPCなどを使用する上でのリスク抑止にもなっているという。世間では多くの情報漏えい事故が発生していることからセキュリティの意識も高まっており、現在では運用が浸透しているという。

「ラネクシーはサポートが非常にしっかりしており、こちらからの提案を含めて相談に乗っていただけます。一度、動作が重いときがあり、それは追加したウイルス対策ソフトの機能との競合が原因だったのですが、その際にもラネクシーは迅速な解決に協力してくれました。今まで受けたサポートの中でもトップレベルです」と小坂氏は言う。サポートのプロフェッショナルが高い評価を与えているサポート力を元に、今後も活用方法のアドバイスや機能追加を含めて、販売と運用のパートナーとして引き続き対応をお願いしたいと語ってくれた。

また、富士通BSCでは、佐賀県伊万里市にシステム運用サービス提供拠点を設立。この3月から運用を開始する。そこでも24時間365日の運用監視を行うが、同様に「MylogStar」も導入し、天王洲拠点と合わせた運用を開始する。

「運用での操作ミスは許されませんが、万が一トラブルが発生したときにはトレースして原因を突き止める必要があります」と杉山氏は言う。

## ナレッジを活かしたMylogStarの更なる活用

現在は、「MylogStar」のいろいろな機能の試行によりノウハウが蓄積されてきている。「使い勝手は非常に良く、活用できそうな機能も豊富に用意されています。また、ログの分析機能はぜひ使ってみたいと考えています。テンプレートからアラートの傾向をレポートできる機能も便利で、一日の稼働レポートから相関して発生している問題の洗い出しにも利用できます。まずは今ある機能を使いこなして、次のレベルに進みたいですね」と小坂氏は今後のMylogStarの活用について抱負を語る。

### 強力なエンドポイントセキュリティ<FENCE & MylogStar>



株式会社富士通ビー・エス・シー サービスビジネス本部  
クラウドサービス事業部 プロジェクト部長

松山 啓介 氏

FENCE(フェンス)シリーズは富士通BSCが提供する情報漏えい対策ソリューションです。多彩なラインナップで「暗号:FENCE-Pro」「持ち出し制御:FENCE-G」「アクセス制御(認証):FENCE-AP」など情報漏えいを防ぐために必要な対策を実施できます。MylogStarの「証跡管理」と組み合わせ、お客様のエンドポイントセキュリティ強化を実現します。

富士通BSCにおける「MylogStar」の販売プランは、自社の導入実績を元にグループでの横展開を実施していきたいと考えています。シンクライアントに対応しているなどの製品特性上、金融やエンタープライズ市場に導入効果を見込めるのは理解していますが、最近では製品ラインナップにスタンドアロン版(MylogStar Desktop)もあることから、特にマイナンバー対策に有効なツールとして推奨しています。低コストで導入できるため、中小企業にも提案が行いやすくFENCEシリーズとの相性も良いです。

富士通BSCはMylogStar及びFENCEシリーズに関して、コンサルテーションから導入・サポートまで、ワンストップでのサービス提供が可能です。セキュリティ対策のスペシャリストがお客様の規模や要件に合わせてご提案をさせていただきます。

ライセンス形態・価格、体験版のダウンロードなど詳細はこちら

<http://www.mylogstar.net/alliance/fence.html>



株式会社 ラネクシー  
<http://www.runexy.co.jp>

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル11F  
TEL:03-6261-4711 E-Mail:mis\_sales@runexy.co.jp

お問い合わせ